

# 新型コロナ感染危機以降の世界と日本

## —金融・財政政策の政策協調および中央銀行が直面する課題

慶応義塾大学総合政策学部教授 白井<sup>しら</sup>い さゆり

- \* 中国、ベトナムはコロナ禍でも高成長
- \* 日本経済がコロナ前に戻るの再来年末
- \* 際立つ先進国の財政支出拡大
- \* コロナ禍で新興国も量的緩和政策を採用
- \* 財政、金融で密接に政策協調した先進国
- \* 高成長の米国は雇用回復が焦点
- \* FRBが新規導入した平均インタゲ理論とは
- \* 格差縮小に対する中央銀行の役割
- \* 出口戦略は依然、各国中央銀行の課題
- \* 必要なグリーンリカバリーへの施策



柴生田 それでは開会いたします。

本日は緊急事態宣言下ということで、残念ながら皆さんにおいていただいてないんでございますが、昨年に続き慶應義塾大学の白井先生においていただきました。1963年のお生まれで、慶應義塾大学をご卒業されておられます。

今日のご専門の金融政策を中心に、世界のコロナ禍以降の経済情勢や金融政策についてお話をいただくことになっております。たいへん難しい情勢でございますが、われわれもきちんとした情報に基づいてきちんとした考えを持ちたいということ、今日はじっくりと考えさせていただきます。

それでは白井先生、よろしくお願いいたします。

中国、ベトナムはコロナ禍でも高成長

白井 慶應大学の白井です。どうぞよろしく願っています。

本日のテーマは「新型コロナ感染危機以降の世界と日本」で、特に金融・財政政策の政策協調の話、それから中央銀行が直面する課題として格差のところを取り上げていきたいと思えます。

講演の流れですが4部構成になっています。最初に簡単にコロナ危機以降の世界経済情勢について概観していきたいと思えます。第2部で、最近よく話題になっているコロナ危機以後、金融・財政政策ではどのような対応がなされたのか、それから政策協調という面でどのような